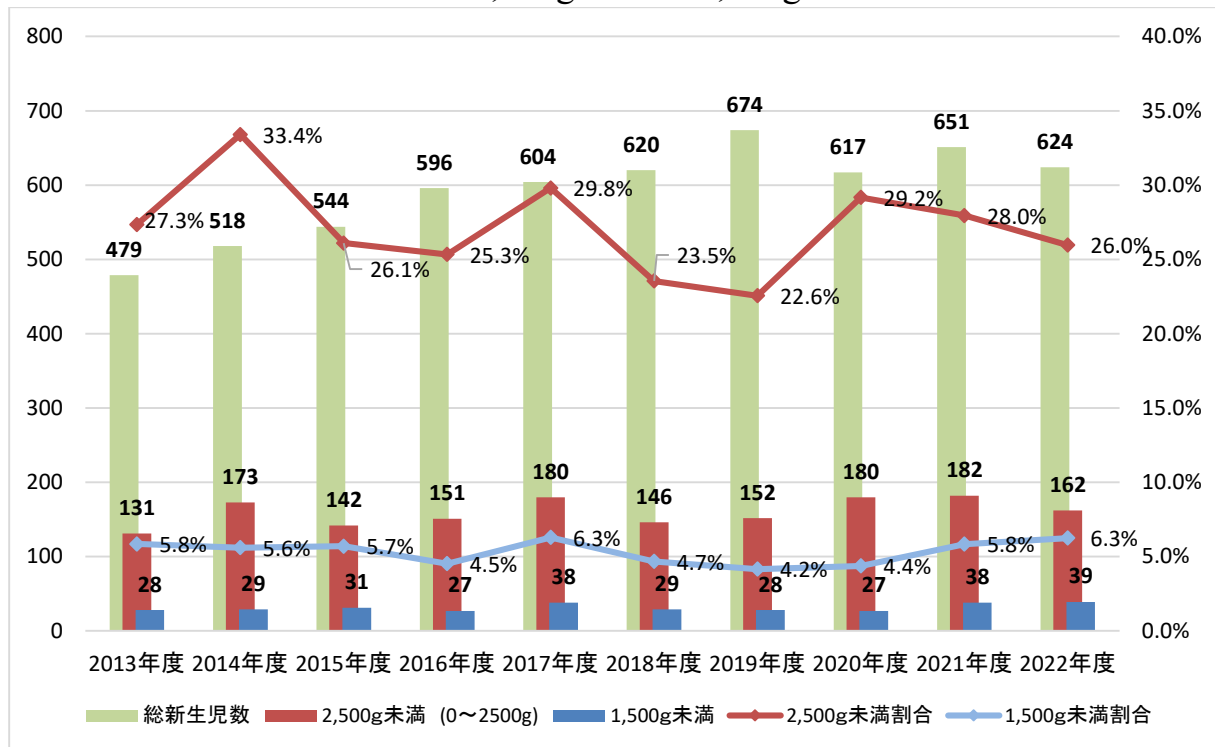


## 新生児のうち、出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合



低出生児の割合は、病院の機能によりこの値が大きく異なるため、他施設と比較するベンチマークとしては望ましくないが、当院における出生体重が 1,500g 未満、2,500g 未満の割合は、2006 年以降、前者が 3.5～6.3%、後者が 23.3～33.4%と概ね横ばいであった。

2017 年度に、2500g 未満の出生児の割合が一時増加した後に再度減少し、2021 年度はほぼ横ばいの 28.0%であった。昨年同様コロナ渦ではあるものの、不妊治療再開による多胎妊娠や昨今のハイリスク妊産婦の増加の影響があると考えられた。

データ提供 看護部 B-3 病棟 (産科)